# 有限会社 大坊建設

2018年度第11回あおもり産木造住宅コンテスト
優秀賞受賞

ユーザー訪問

## 柳谷 様邸

DATA

むつ市金曲　2018年1月竣工
■床面積／平屋建て 32.12坪（106.19㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（柱）、スギ（柱、床、外壁）、梁（アカマツ、カラマツ）。

## 計画当初はリフォーム 古材を使い 建て替えに

新田名部川の橋を渡って左折すると、川沿いを真っ直ぐ伸びる土手道の前方に、板張りの平屋が見えていた。「古民家」と聞いていたから〝古い外観〟をイメージしていたが、下見板張りの外壁はどう見ても真新しい。土間に入ると、真っ黒な梁が見るからに年代物であった。なるほど、外は新しいが、室内に古材を使っているのだ。土間と居間の仕切りに架かる梁も、その梁を受ける5寸5分の大黒柱も黒色。客室の引き戸はベンガラ色……。築120年の父親の実家の古材を生かして建てた古民家――柳谷様邸をご紹介する。

**――川沿いのこの場所にご両親の家が建っていたのですね。**

**柳谷様の話**　そうです。父が建てた家で、築40年でした。ここから両親が移転したので、残

高校のボート部の練習風景が眺められるのどかな「川をのぞむ家」

土間から見える目に鮮やかなベンガラ色の引き戸

ず専門家に相談してみることにしました。それが3年前の2015年でした。

仙台の設計事務所を紹介してくれたのは会社の同僚です。相談するならあの人がいいよ、と。その建築士に来ていただいて家を見てもらったところ、勧められたのは建て替えでした。けっこうあちこち傷んでいるとか。専門家がそう判断したのですから、リフォームから新築に切り替えることにして、設計をお願いしました。ところが、一時ストップをかける事態が発生したのです。

同じむつ市内の大湊にあった父の実家が建て替えられることになったんです。築120年になる本家で、そこには伯母が住んでいましたが、わたしが建築士に設計依頼した時点では、まだ建て替えの計画はなかったのです。建て替えるとなれば、家は解体されるわけで、古材が発生します。

された家を、リフォームするなり、建て替えるなり、好きにしていいと、わたしに一任されたんです。古いことは古いけど、手をかければまだ住めなくはないだろうと思って、とりあえ

父親の実家の古材がふんだんに使われた居間

１２０年もの思い出が刻まれた古材を利用しない手はありません。実はわたし、以前から雑誌などで読んで古民家に惹かれていたんです。それで、設計事務所に、ちょっと待ってくださいと。でないと、見積もりは新しい木材で積算されることになります。それを、古材に替えてくださいと。

**――タイミング的にはちょうど良かったわけですね。**

**柳谷様の話**　本家を建てた曾祖父が、わたしに古材をプレゼントしてくれたんだと考えています。それは良かったのですが、問題が起きました。その実家の解体がもうすぐ始まろうとしていた時点で、解体業者に、伯母の家族が、古材を取っておいてくれるようにきちんと伝えていなかったんです。解体は、重機を使って壊してしまうのでしょうから、貴重な古材もゴミにされてしまいます。でも、助かったのは、その解体業者の親方がとっても良

懐かしさを感じさせる土間と居間を仕切るガラス戸

い人で、使えそうな柱や梁はチェーンソーで切り離して取り置いてくれたんです。床材もね。それをトラックに積んで、ここの父の家まで運びました。中に運び入れるのが一苦労でしたね。重いし、長いし。男性陣にまじってわたしも汗だくになって運びましたよ。もちろん、ここの家の解体も、その親方にお願いしました。

## 青森県古民家再生協会 田子の大坊建設を紹介

**柳谷様の話**　むつ市内の、古民家を建てているというある工務店に声をかけてみたのが2017年です。ところが、「外注は受けない」と断られました。当社の方針は設計・施工だと。他の設計事務所の設計ではなく、自社で設計し、施工するということですね。その工務店の方針なのだから致し方ないとあきらめかけたら、青森市にある工務店を紹介してくれるというのです。ここでも〝良い人〟に恵まれました。

紹介されたのは『青森県古民家再生協会』のOさんという方でした。会長だそうです。まさにぴったりの人を紹介してくれたわけです。でも、喜んだのもそこまでで、「今のところ手いっぱいで要望に応えられない」という返事でした。また門戸が閉ざされた思いがしましたけど、Oさんがこう言ったんです。「当協会の会員が田子町にいますので、よければ紹介します」と。その会員が、㈲大坊建設だったんです。

大坊さん（大坊幸吉社長）が、田子の作業場まで古材をユニック車で運んで行って、使える木材の選定作業に入りました。仙台の建築士も立ち会ってくれました。一般に古民家の建築は、梁のほぞ穴などには埋め木をし、その上から塗装して、見分けがつかないように仕上げるのだそうですけど、わたしはあえてそのままにしてもらいました。そのほ

川に面する入り口から入った土間を将来は喫茶店にする計画という

うが一目で〝昔の木〟だと分かりますから。

## 築120年に宿る〝時〟戸や家具も再び生きる

**——いろいろ紆余曲折のあった家づくりを、今、振り返ってみていかがですか。**

**柳谷様の話**　家が完成してから半年になります。今でも胸をなでおろすのは、お風呂のことです。ユニットバス。設計では0・75坪タイプだったんですけど、狭くないかなって気になっていて、ショールームに行って実際に浴槽に入らせてもらったら、脚が伸ばせないんですよ。膝を抱えるような感じ。だけど、もう現場が始まってしまっているし……。まだ設計段階なら建築士に変更してもらえばいいんですけどね。そう悩んでいるときに、大坊さんが力になってくれたんですよ。風呂は毎日入るものだから、そのたびに「狭いなぁ」と感じるのと、「良かったなぁ」と満足するとでは天と地の違いだからと、大坊さんが、1坪タイプのユニットバスに変更してくれるよう建築士に連絡してくれたんです。これには大感謝でしたね。現場が始まってしまうと、そういう変更とかはやってくれないものでしょう。だけど、大坊さんは、「風呂の不満が、家全体の不満になったのでは建てる意味がない」と。職人気質に触れた思いでしたね。ほんとうに良かった。

実家に仕舞われてあった格子戸を利用したトイレの引き戸

生まれ変わった靴箱にも年季が引き継がれる

化粧垂木がまるで登り梁のように太くて力強い

仕事部屋兼寝室に置いてある箪笥も専門店に頼んでリメイクしてもらった

囲炉裏の枠が洗面所の鏡に変身。既製品にはない趣がある

**――箪笥も再利用したとか。**

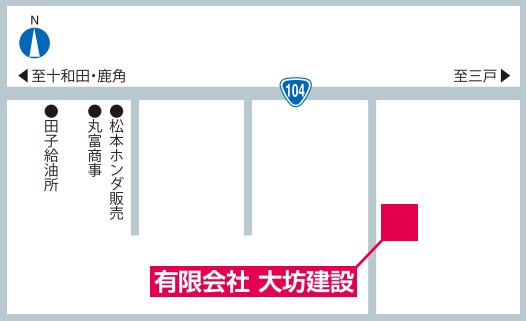
**柳谷様の話**　古い木材を再利用するということは、建具も、家具などもまた生かされることなんだと建ててみて実感しました。逆に言うと、古い木材の空間にいちばん合うのが色合い的にも古い家具ですしね。

ベンガラ色の建具もそうだし、仕事部屋兼寝室のロフトに置いている箪笥も専門店に頼んでリメイクしてもらいました。タタキの土間（将来は喫茶店にする計画）と居間の間の引き戸も昔のままのものだし、トイレの戸は実家に仕舞われてあった格子戸を使い、囲炉裏の枠は洗面所の鏡に変身しました。

120年もの〝時〟が刻まれた木材や建具を生かすということは、「木」の命を引き継ぐということではないでしょうか。ここに住んでいると、ご先祖に守られているような気がして、落ち着くんですよ。


**有限会社 大坊建設**

本　　社●三戸郡田子町大字田子字下田子69-4
TEL.0179-32-3580 FAX.0179-32-3582
http://www.ii-ie.net/daibou/
E-mail : kouki299@leaf.ocn.ne.jp
八戸営業所●-八戸市下長5丁目9-9
TEL.0178-28-2798 FAX.0178-21-3558

# 株式会社 ミヨシプラス

## 築40年の祖父の家 改修
## 和室残し居間を現代風

リフォームする以前とは見違えて広々と明るく生まれ変わった佐藤様邸のリビング。ご主人の祖父が建てた築40年の格式ある家で、和室の続き間を含め8部屋あるうち、キッチン、リビングを中心に現代風にリフォームした。以前は磨りガラスだった窓を透明ガラスに替え、そこに建てた上げ下げできる2段の障子。下段を上げれば雪見障子、上段を下げれば空が見える、佐藤家オリジナルの〝空見障子〟だ。24帖のこのリビングを暖めるのがペレットストーブ。木質バイオマスを燃やすペレットストーブがきっかけで、健康にこだわる家づくりの㈱ミヨシプラスと繋がった。

リフォーム
### 佐藤 様邸

DATA
上北郡六戸町　2017年12月竣工
■延べ床面積／77.98坪（257.78㎡）のうち23坪（76㎡）リフォーム
■使用青森県産材／スギ（柱）、アカマツ（梁）など。

新しくなった4枚建ての玄関引き戸が“和風”を引き立てる

**――ご主人も奥様も、この家に住んでいたことはなかったそうですね。**

**ご主人の話**　そうです。祖父が76歳のときに建てた家で、そこに父と母が帰ってきて同居しました。祖父の葬儀は和室の続き間で行いした。それが祖父の願いで、そのために建てたんです。私はその頃もう社会に出ていましたから、この家に帰ってくるのは盆くらいでした。冬は寒いしね。帰ってくれば、2人の息子にとっては続き間も広い廊下も運動場みたいなもので、走り回っていましたよ。

**奥様の話**　廊下の右側の和室はそのまま残して、廊下の左側の寝室と、離れていたトイレなどの水回りを近くに移し、キッチンとリビングを広く明るく直すことにしたんです。義母と同居するためのリフォームなので、ともかく夏涼しく、冬暖かくが第一でした。

**――ペレットストーブとミヨシプラスが結び付いた経緯を**

“洋”に融け込む“和”の2段の障子。下段を上げれば雪見障子、上段を下げれば“空見障子”

**お聞かせください。**

**ご主人の話**　最初から暖房は炎が見えるペレットストーブと決めていました。ほんとうは薪ストーブに魅力があったんですが、歳を取るほど体力的に薪は重くなりますでしょ。それでペレットストーブにしたんですけど、もともとは「山」から始まったんですよ。順序立てて話しますと――実は六戸に「山」を持っていまして、というより、祖父の代からの山があって、それを今後どう手入れしていったらいいかと考えていたときに、去年、新聞で「キコリ講座」の記事を見たんです。それに応募して、三沢の高橋（高橋博志）さんを知りました。

クッキングも楽しめるペレットストーブ

**――高橋氏が理事長の、NPO法人青森バイオマスエネルギー推進協議会が行っている講座ですね。〝山主自らが木をチェーンソーで伐採し手入れする〟という趣旨の取り組み。**

**ご主人の話**　「山」の手入れに役立てばと参加してみたんですよ。高橋さんによると、個人で小規模に行う〝自伐林業方式〟を増やして、それを原料に木質バイオマスのペレットを製

広く明るく現代風にリフォームされたリビング

造する、というのが目的なんだそうです。高橋さんは㈱高橋の社長さんで、その敷地内に、大きなペレットの製造プラントがあるのには驚きましたね。他県から出来合いのペレットを取り寄せるのではなく、地元で製造して地域に供給しているのだから、これぞまさに〝地産地消〟です。高橋さんの事務所にもペレットストーブが付いていたので、どこから買えばいいのか聞いてみたら、紹介されたのがミヨシプラスだったんです。親しい仕事仲間なんだそうです。

**――ミヨシプラスは〝環境にいい〟ペレットストーブの普及に力を入れていますからね。**

**ご主人の話**　それで、住所を調べて八戸の事務所を訪ねて行ったんです。その時点では、ミヨシプラスにリフォームをお願いすることになるとは思っていませんでした。漆戸さん(漆戸悟社長)とお会いする前に、すでに3社から見積もりを取って

格式ある造りの2間続きの和室の奥にはイチイの床柱がどっしりと立っている

いたんです。そのいずれかに頼むつもりでした。でも、事務所でお話ししているうちに、「当社でもリフォームやりますよ」と漆戸さんが言ったんです。考えてみれば、ミヨシプラスは工務店なのだからリフォームもやって当然ですよね。なあんだと腑に落ちたような気持ちになって、それならペレットストーブもリフォームもまとめて、と一気に話が進みました。

## 自然素材へのこだわり 壁に『稚内珪藻土』使用

**ご主人の話**　漆戸さんから家づくりについていろいろ聞いた話の中で、印象に残ったのが「無垢材」のことでした。冷凍庫で20分ほど冷やした2枚の板を取り出して、漆戸さんが、「触ってみてください」とテーブルに置いたんです。両手をのせてみたら、明らかに違いがありました。1枚(合板)は金属みたいに冷たく、もう1枚(無垢材)はさほどでもありませんでした。真冬に裸足でも冷たくないのがこの無垢材の特性なんだとか。漆戸さんは――だから当社では健康にいい自然素材にこだわっている。木だけじゃなく、壁の珪藻土も、青森県では当社だけが使っている高性

能な北海道の『稚内珪藻土』を採用――と。熱意が伝わってきましたね。妻は札幌生まれなので、この〝稚内産〟に親近感を抱いたようですよ。

もともと大工さんだということも漆戸さんに決めた大きな要因ですね。実は、さっきお話しした3社との営業マンたちとの間で、こんなやりとりがあったんですよ。今のこのリビングが、以前は台所と水回りとに仕切られていたので――その境の壁を取り払ってワンルームの広い対面式のキッチンとリビングにしたい、と話したら、「出来ない」と言われたんです。「柱が外せないから出来ません」と。3人とも――。「出来ます」と言ったのは漆戸さんだけでした。「スパンの長い鉄骨の梁を架ければ問題ありません」と。その一言で決めたようなものです。実際、そのとおりに出来ましたしね。

**――お母様は今、施設にいらっしゃるとか。**

**ご主人の話**　そうなんです。母と同居するためにリフォームしたんですけどね、想定外のことが起ったんです。工事期間中、私と妻は和室で過ごしましたが、高齢の母は施設に入れたんです。そうしたら施設が気に入っちゃったんですね。工事が完成（2017年12月）して、家に母を連れて帰ってきたら、施設のほうがいい、って戻ってしまったんですよ。

**奥様の話**　わたし思うに、お義母さん、本家の長男の嫁として長いこと背負ってきた〝重荷〟を全部下ろして、さっぱりしちゃったんじゃないかしら。庭は草1本生やさず手入れして、部屋はゴミ一つなく掃除し、廊下もピカピカに磨き込んで、朝は暗いうちから食事の支度に起き出し……、長男の嫁として守ってきたこの「家」そのものを、背中から下ろしてしまったんですね、きっと。施設にいれば食事の支度をしなくてもいいし、掃除も洗濯も草むしりも何

広く長い廊下の左側がリフォームしたリビング、右側が建てた当時のままの和室の続き間

リビングの入り口に生かした組子入りの建具

海外で収集した食器が並ぶ昔の食器棚は古さと新しさがマッチ

にもしなくても快適に過ごせるのだからこんないいところはない――そんな解放された気持ちになったんだと思うんですよ。

**ご主人の話**　本音を言えば、家より施設のほうがいいとは、息子として複雑な思いもありますけどね。でも、本人がそれで満足なのだから、家族としても気持ちが楽ですよ。

## 帰る家こそ「ふるさと」〝地方の豊かさ〟を発信

**奥様の話**　この「家」に入るということは、わたしには、この「地域」と同居することと同じ意味でした。主人が継いだ家ではあるけど、札幌出身で、札幌や東京での生活が長かったわたしにとって、六戸に住み着くにはまず「言葉」の問題がありました。溶け込めるかな、って不安がありましたよ。それに義母と同居するとなると、食事の味付け一つにしても違いがありますし、部屋数の多い広い家を掃除もしなければなりません。玄関脇の庭の草取りもまめにしなければなりませんしね、「本家」ならではの細かな気遣いがいろいろたくさんあるんですよ。でも、「家」に入ってしまったら、この家の〝すごさ〟というか、だんだんと分かってきたんです。

**――奥座敷の床の間は格式ある見事な造りですよね。**

**奥様の話**　そうそう。幅が広くて（2間半）、太い床柱（イチイ）が立っていて、あの天の羽衣の、三保の松原を描いたに違いないガラス障子の帆掛け船や鶴や富士山や、襖の松。しかも襖の柄が〝松竹梅〟になっているんですよ。奥座敷が「松」、次が「竹」、仏間が「梅」です。それと、仏間の長押に並べて飾ってあるご先祖の遺影……。この「家」に込められた〝魂〟のようなものが伝わってきて、大事にしなきゃって思うようになったんです。

「家」だけじゃなく、義母の「靴

下」もそうなんですよ(これ見てください、と取り出してきた靴下の裏には縫い目が見える)。箪笥の引き出しの中に仕舞ってあったんです。こうなるまで穿かなくても、封を切らないままの新しい靴下が何足もあるんですよ。それでも新しいものは取っておいて、穿き古した靴下に布をあてがって縫っては破れるまで穿く。そういう身に染みた〝辛抱〟が暮らしを支えてきたんですね。今の時代みたいに物を簡単に捨ててしまうことよって磨かれる心はありません。この「家」を守ってきた義母の思いも、大事に継いでいきたいものです。

義母が締めていた帯の一部を切り取り額に入れてリビングに飾ってある

**——実際に六戸に住んでみてどうですか。**

**奥様の話**　この地域の〝いいところ〟が一杯見えてきました。スーパーで買ったことしかなかった野菜が、庭の菜園からも、近くの畑からも採れますし、新鮮でおいしいこと。車で行けば奥入瀬も十和田湖も近いし、周りの自然に心が洗われるし癒されるし、青森のねぶたや、弘前のねぷたや、五所川原の立佞武多……、六戸の町内の祭りは窓から見えますしね。ここには都会にはないものが全部あります。人も優しいしね。わたし、コーラスをやっていまして、けっこう音楽仲間も遊びにくるので、この家を拠点に、この地方の素晴らしさを発信していこうと思っているんです。

義母が何回も縫い直して穿いた靴下。その心が「家」に引き継がれている

**ご主人の話**　今は東京に住んでいる息子たちが、次に継いで住んでくれるかどうかは分かりませんけどね。帰ってくる家があってこそふるさとですから、私らが元気なうちはこの「家」を守っていきますよ。


家(いえ)づくり 幸(しあわせ)づくり 夢(ゆめ)づくり

yumehouse 夢ハウスパートナー 株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所
八戸市石堂3丁目3-9　2階
TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318
E-mail : info@miyoshiplus.jp

# 株式会社 ミヨシプラス

## 県産材フェア『森のめぐみ展』でペレットストーブ発信

### エネルギーを地産地消 木質バイオマス需要増

県産材フェア「森のめぐみ展」が、八戸ポータブルミュージアムはっち及び、向かいのマチニワで開かれた（2018年10月13、14日）。はっちの入り口そばに「ペレットストーブ」の旗が立っていた。そこが、自然素材の家づくりを展開する㈱ミヨシプラスのブースだった。「ピザください」「おいくつ」「一つ」――その声だけを聞けばピザ屋さんとお客とのやりとりだが、〝売り〟はあくまでも「ペレットストーブ」で、ピザは人寄せ。漆戸悟社長が、ペレット窯から取り出した焼きたてのピザを、「はい、お待ち」と差し出す。「ピザみたいにストーブも売れればね」と笑った。

ペレットも、〝森の恵み〟の一つだ。間伐材や木くずを固めて鉛筆ほどの太さにし、短く切った燃料で、いわば〝小さな薪〟。二酸化炭素の排出を増やさない、石油に代わる地域環境に優しい木質バイオスとして需要が高まっている。

ミヨシプラスが使用しているペレットは、三沢市の㈱高橋（高橋博志社長）のプラントで製造されているもので、地元の木が原料。高橋社長は、NPO法人青森バイオマスエネルギー推進協議会の理事長でもある。地域のエネルギーは地域で賄おう、という目的のもと、連携して漆戸社長がペレットストーブを拡販しているのだ。3・11（2011年）の震災の際には、避難場所となった学校にメーカーが支給したペレットストーブを設置する応援にも駆け付けている。

〝地球にやさしく　人にもやさしい〟ペレットストーブをもっと知ってもらおうと、漆戸社長は毎回「森のめぐみ展」に参加。デ

キャンプ好きというご家族は、冬はペレットストーブの前でキャンプ気分を味わう（左は漆戸悟社長）

県産材フェア「森のめぐみ展」で八戸ポータルミュージアムはっちの入り口そばに設けられたミヨシプラスのブース

ブースの前に展示されたペレットストーブ。燃料のペレットは青森県産の木が原料

モンストレーションとしてペレット窯でピザを焼いている（車で牽引して移動できるペレット窯はイベントなどで大活躍）。「電気で焼くより、直火で焼いたほうが格段にうまい」と漆戸社長は話しながらも、次々の注文に追われて生地にソースを塗ったり、ハムを置いたり、チーズをかけたりと休む暇もない。

これまでに新築やリフォームの現場に取り付けたペレットストーブは80台以上という。「ユーザー様から設置して良かったって、いっぱい感謝のコメントを頂戴していますよ。ストーブを付けたときに、あとで取りにくるから記入しておいてくださいってアンケート用紙を渡してくるんです」

寄せられた〝感謝の声〟の一部をご紹介する。

**T様**（八戸市西白山台）…「森のめぐみ展」で初めてペレットストーブと出会いました。ガラス窓が大きいので炎がよく見

えてとても癒されます。子供たちは、カラン、コロンとペレットの落ちる音が楽しいと喜んでいます。

**M様**（八戸市多賀台）…灯油焚きの温風ストーブを使っていましたが、吹き出る風が気になっていました。子供の頃に馴染んでいた炎の見えるストーブに替えたくても、私達老人には薪ストーブはたいへんです。ペレットストーブのことを教えてくれたのは娘の旦那でした。薪割りの必要がなく、燃料が小さな木の塊りで、しかも炎が見える、と。

「大工」「木質バイオマス普及員」「ピザ職人」の3つの顔を持つ漆戸社長

さっそく設置しました。木ならではの温もりある心地よい暖かさもそうですが、ストーブでお湯が沸かせ、煮物もできるのがとても気に入っています。

**Mちゃん**（八戸市鮫町）…ペレットすとうぶはまいにちもしています。ねるへやがあったかくなってねれないほどあついです（原文のまま）。

**N様**（八戸市）…わが家には床暖房の設備がありますが、ここ数年の灯油の値上がりのため節約して、ファンヒーターを使用していました。しかし、点火のときの臭いや、室内の湿気が気になってきていたときに、漆戸社長さんから勧められたのがペレットストーブでした。使ってみると、臭いも、空気の汚れも気にならず、音も静かで、部屋じゅうが暖かで落ち着いた雰囲気になり、炎を見ているだけで癒されています。ストーブの上でお湯が沸かせるのもたいへん気に入っています。

ペレット窯から取り出した焼きたてのピザを差し出して、「はい、お待ち」

## 湯が沸かせ加湿器不要 煮物やスープ煮込める

**S様**（八戸市白銀町）…ペレットストーブの温もりは柔らかく、心に安らぎを与えてくれます。木の香り、ストーブの窓から見える炎、ペレットがポロポロと落ちる音……。そしてストーブの上で煮物やスープをコトコト煮込んだりと五感を充分に楽しませてくれます。

**S様**（八戸市白銀台）…ストーブの上でお湯が沸かせるから、加湿器が不要です。おイモも焼け、1台で何役もこなします。

ペレット窯の前でピザ作りに奮闘

ピザを買い求める行列ができた

**S様**（八戸市沼館）…今まではエアコンと遠赤外線暖房機を併用していましたが、ペレットストーブに替えてから電気代が半分以下になりました。

**H様**（八戸市売市）…3人目の子供も進学のため上京したと

きには、寂しさがかなりこたえました。ペレットストーブの暖かさと揺れる炎がずいぶん慰めてくれました。

**Y様**(おいらせ町)…ペレットは1日1袋(10kg入り)が目安です。エアコンとFFストーブを使っていた以前と比べて月に5000円～8000円も安くなっています。ストーブの周りに人も犬も猫も集まってぬくぬくしています。ペレットが燃える熱さは〝血液を温める〟というのは本当だなと実感しています。

木質バイオマスの炎が自然素材の空間に柔らかくマッチ

薪割りはきついという年代に小粒で軽いペレットが歓迎されている

**匿名**…林業関係の仕事をしているので住宅は県産材で建てました。暖房も県産木材を燃料とするものにしようと考え、薪ストーブかペレットストーブにするか悩みましたが、敷地に薪棚を作る余地がなく、嵩張らないペレットにしました。

**匿名**…わが家はオール電化ですが、電気料金の値上げをきっかけにペレットストーブを導入しました。事前にネットで調べたら、デメリットとして、毎日の掃除がたいへん、とありましたが、実際に使ってみて、掃除は思ったよりも簡単で苦になりません。ペレットの確保も、ミヨシプラスさんに連絡すれば配達してくれるので安心です。炎が見え、木のいい匂いもして、娘は「ペレちゃん」と名前まで付けてしまいました。


家(いえ)づくり 幸(しあわせ)づくり 夢(ゆめ)づくり

yumehouse 夢ハウスパートナー 株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所
八戸市石堂3丁目3-9　2階
TEL.0178-80-7357　FAX.0178-80-7318
E-mail : info@miyoshiplus.jp